

このポスターは、H28年11月に横須賀市自然・人文博物館研究発表会で発表したものです。

齋藤和久（神奈川県環境科学センター）・萩原清司（横須賀市博）・
出島誠一（ずし環境会議 まちなみと緑の創造部会）

カマキリとは？

学名 *Cottus kazika* Jordan and Starks, 1904, 別名アユカケとも呼ばれるスズキ目カジカ科カジカ属の日本固有の淡水カジカ的一种。最大で250 mmSLに達し、産卵のために川を下り沿岸域で産卵する降河回遊魚。太平洋沿岸では青森県から高知県にそそぐ河川の河口域から中流域に生息することが知られる。全国的に減少しており、環境省のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類として掲載されている。



カマキリの頭部(左写真)

口は大きく、前鰓蓋骨の後端に上向きの強い棘がある（赤色円内）。

この棘で「アユを引っかける」という俗話からアユカケという別名が付けられた。



歯側からみたカマキリ(左写真)

肉食性で他の魚類や甲殻類などを丸呑みにするため、頭部は非常に大きい。

体の後半部にあらわれる3本の黒色の横帯が明瞭。

県内および三浦半島の生息状況

これまで県内の河川からは、早川、酒匂川および相模川の県西部から中央部の比較的規模が大きい河川に出現していたが、堰の影響や水質悪化などにより著しく減少した。最近、相模川や酒匂川では、個体数増加の兆しが見られるものの、他河川からの採集は極めて稀であるため、県のレッドデータ生物調査報告書2006では、絶滅危惧ⅠA類とされている。

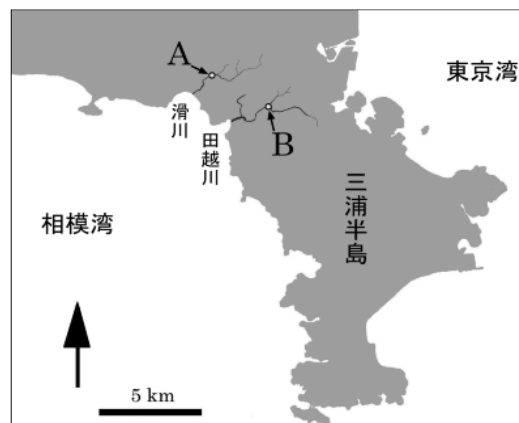
三浦半島では、1972年に明仁親王が下山川から採集されたことを論文の一説に記述しているが、標本は保存されておらず、これまで標本に基づく正式な記録はなかった。

三浦半島から得られたカマキリの標本

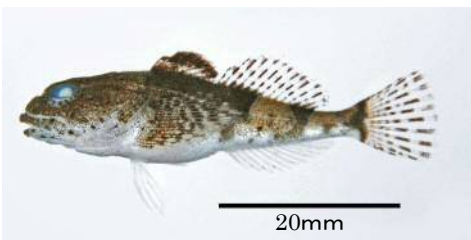
2016年8月27日、逗子市の田越川で行われた自然観察会においてカマキリ1個体が採集された。これをきっかけとして、横須賀市自然・人文博物館に保存されている標本を調査したところ、2011年8月21日に鎌倉市の滑川から採集された未報告の標本1個体を確認した。

三浦半島産カマキリ標本の概要

- YCM-P45277, 1個体, 2011年8月21日, 神奈川県鎌倉市小町, 滑川・東勝寺橋下流 (35.32110N, 139.55778E; 第1図-A), 長谷川孝一採集, タモ網。全長: 43.3 mm, 標準体長: 35.1 mm, 頭長: 13.9 mm, 体高: 9.0 mm, 尾柄高: 3.0 mm (第2図)。
- YCM-P46055, 1個体, 2016年8月27日, 神奈川県逗子市桜山, 田越川・池子川合流点 (35.29868N, 139.58850E; 第1図-B), 観察会参加者採集, タモ網。全長: 97.6 mm, 標準体長: 81.9 mm, 頭長: 31.5 mm, 体高: 19.9 mm, 尾柄高: 6.8 mm (第3, 4図)。



第1図 採集地点図 A. YCM-P45277 鎌倉市小町東勝寺橋下流 (35.32110N, 139.55778E); B. YCM-P46055 逗子市桜山田越川・池子川合流点 (35.29868N, 139.58850E)



第2図 YCM-P45277の標本写真
冷凍標本を回復して撮影したため眼球は白濁している。



第3図 YCM-P46055の標本写真



第4図 YCM-P46055の生時水槽写真

おわりに

田越川では今回、偶然にも市民を対象とした観察会でカマキリが採集されたが、2016年8月6日には、金目川中流の観音橋で行われた自然観察会でも2個体が目視確認されている。近年、相模湾沿岸の河川で多数開催されている自然観察会等においても出現する可能性があると考えられ、自然観察会の主催者・参加者への聞き取り調査も本種の分布調査に有効な手段であると思われる。

三浦半島から採集されたカマキリ（アユカケ） （スズキ目；カジカ科）

齋藤和久（神奈川県環境科学センター）・萩原清司（横須賀市博）・
出島誠一（ずしし環境会議 まちなみと緑の創造部会）

カマキリとは

学名 *Cottus kazika* Jordan and Starks, 1904, 別名アユカケとも呼ばれるスズキ目カジカ科カジカ属の日本固有の淡水カジカ
の一種。最大で250 mmSLに達し、産卵のために川を下り沿岸域で産卵する降河回遊魚。太平洋沿岸では青森県から高知県に
そそぐ河川の河口域から中流域に生息することが知られる。全国的に減少しており、環境省のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類と
して掲載されている。



カマキリの頭部(左写真)

口は大きく、前鰓蓋骨の後端
に上向きの強い棘がある（赤色
円内）。

この棘で「アユを引っかけ
る」という俗話からアユカケと
いう別名が付けられた。



歯側からみたカマキリ(左写真)

肉食性で他の魚類や甲殻類など
を丸呑みにするため、頭部は非常
に大きい。

体の後半部にあられる3本の黒色
の横帯が明瞭。

県内および三浦半島の生息状況

これまで県内の河川からは、早川、酒匂川および相模川の県西部から中央部の比較的規模が大きい河川に出現してい
たが、堰の影響や水質悪化などにより著しく減少した。最近、相模川や酒匂川では、個体数増加の兆しが見られるもの
の、他河川からの採集は極めて稀であるため、県のレッドデータ生物調査報告書2006では、絶滅危惧ⅠA類とされている。

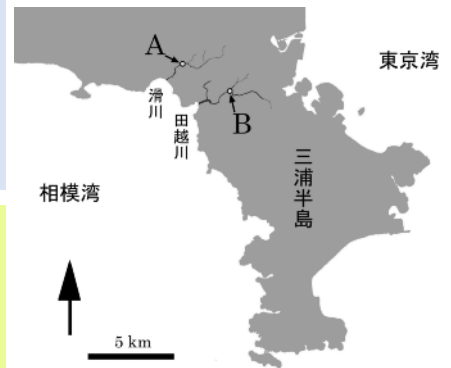
三浦半島では、1972年に明仁親王が下山川から採集されたことを論文の一説に記述しているが、標本は保存されておらず、
これまで標本に基づく正式な記録はなかった。

三浦半島から得られたカマキリの標本

2016年8月27日、逗子市の田越川で行われた自然観察会においてカマキリ1個体が
採集された。これをきっかけとして、横須賀市自然・人文博物館に保存されている標本
を調査したところ、2011年8月21日に鎌倉市の滑川から採集された未報告の標本1個
体を確認した。

三浦半島産カマキリ標本の概要

- YCM-P45277, 1個体, 2011年8月21日, 神奈川県鎌倉市小町, 滑川・東勝寺橋
下流(35.32110N, 139.55778E; 第1図-A), 長谷川孝一採集, タモ網。
全長: 43.3 mm, 標準体長: 35.1 mm, 頭長: 13.9 mm, 体高: 9.0 mm, 尾柄高:
3.0 mm(第2図)。
- YCM-P46055, 1個体, 2016年8月27日, 神奈川県逗子市桜山, 田越川・池子川合
流点(35.29868N, 139.58850E; 第1図-B), 観察会参加者採集, タモ網。
全長: 97.6 mm, 標準体長: 81.9 mm, 頭長: 31.5 mm, 体高: 19.9 mm, 尾柄
高: 6.8 mm(第3, 4図)



第1図 採集地点図 A. YCM-P45277 鎌倉市小町東勝寺橋下流
(35.32110N, 139.55778E); B. YCM-P46055 逗子市桜山田越川
・池子川合流点 (35.29868N, 139.58850E)



第2図 YCM-P45277の標本写真
冷凍標本を回答して撮影したため眼球は白濁している。



第3図 YCM-P46055の標本写真



第4図 YCM-P46055の生時水槽写真

おわりに

田越川では今回、偶然にも市民を対象とした観察会でカマキリが採集されたが、2016年8月6日には、金目川中流の観音橋で行
われた自然観察会でも2個体が目視確認されている。近年、相模湾沿岸の河川で多数開催されている自然観察会等においても
出現する可能性があると考えられ、自然観察会の主催者・参加者への聞き取り調査も本種の分布調査に有効な手段であると思
われる。